

留萌市第3回市民検討会議
議事概要

日時：令和7年7月30日（水）15:00～17:00
場所：留萌市役所 3、4号会議室

出席者 委 員 藤野委員（座長）、笠井委員（副座長）、橋本委員、前田委員、炭谷委員
坂本委員、畑中委員、小川委員、伊端委員、谷委員、矢作委員、志田委員
菖蒲委員、山本委員 ※順不同
欠席委員 上田委員、村上委員、佐藤委員
オブザーバー 留萌市 渡辺総務部長、海野地域振興部長、大和都市環境部長
吉田教育部長、三上総務課長、林政策調整課長、竹内経済観光課長
安田建築住宅課長、百瀬生涯学習課長
事務局 留萌市都市環境部複合施設推進室：大塚室長、成田主査、遠藤主査
運営支援 (株)ドーコン 佐竹、石田、渡邊

開 会

- ・藤野座長開会あいさつ

1. 前回の振り返り

事務局

- ・前回の会議の詳細は、既を送付している第2回議事概要を参照いただきたい。
専門部会が立ち上がったことを報告する。また、前回会議からの修正資料の説明をさせていただく。
- ・修正資料「前提条件の整理」の説明を行った。

座長

- ・導入機能について、事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・「資料1：留萌市新交流複合施設整備検討会議におけるロードマップ」、「参考資料：留萌市新交流複合施設基本構想における導入機能」の説明を行った。

委員

- ・部会ではどのような議論になったのか。

座長

- ・ロードマップに記載している市民検討会議の進め方の確認を行った。また、今から説明がある他地区事例について意見交換を行った。ただし、過去の会議体等で既に議論がなされていることから、同じ議論にならないようにする必要があるとの議論になった。
- ・本来であれば、今回の議題である市民交流機能および交通結節機能について、論点整理まで行う予定であったが、できずに本会議に臨むこととなった。部会での議論内容をお伝えして進めるべきだが、今回は至らなかったため、後で説明がなされる事例について議論いただきたい。

事務局

- ・検討会議での議事を公表する予定であったが、まだ公表できていない。今後公開する形で進めていた期待と考えており、議事「その他」で詳細に説明する。

委員

- ・部会に座長が入られていることが重要であると考えている。特に今回の議題である市民交流機能と交

通結節機能は座長の得意分野であるため、聞かせていただいた。

委員

- ・部会において、宿泊機能を考慮しなくては良いのかという意見を出させていただいた。その場では結論が出なかったが、後ほど調べた結果、建築費が高騰しており、別棟で新たに建築の場合は相当な建築費となる。そのため、市民交流施設の中において宿泊施設を検討するのが良いと考える。

A案：宿泊機能なし、B案：宿泊機能ありという2つの案で検討を進めていくことが望ましいのではないかと。

座長

- ・その他意見はあるか。

一同

- ・ない。

2. 議事

座長

- ・続いて事例の説明をお願いします。

事務局

- ・「資料2：市民交流機能の事例」の説明をドーコンからお願いします。

ドーコン

- ・「参考資料：留萌市新交流複合施設 基本構想における導入機能」1ページに記載の整備イメージは、公共施設整備検討会議において検討された内容である。この議論結果を前提にしたうえで、事例紹介でイメージを膨らませてどのような機能が良いか議論いただきたい。
- ・「資料2：市民交流機能の事例」について説明を行った。

座長

- ・市民交流機能について議論を行いたい。具体的には、事例にある通り、フリースペースに市民が集まることや、物販やカフェなどの空間が想定される。このような機能があったらよいという意見をいただきたい。また、さきほどの宿泊機能についてはその他機能として第5回の検討会議で意見を伺いたい。

委員

- ・この議論は新施設の1階に交流機能を必ず整備ということではないと理解している。一般的には、平日日中は人が来ない。カフェ機能等を併設するなど日常的に行きやすい空間とすることが大事だと考える。
- ・図書館の併設事例が全国あちこちにある。ある程度の人が利用するが、役場と併設すると、土日にこのフロアが開いているのかという問題ある。
- ・にぎわいの創出というコンセプトにおいては、低層階にフリースペースを作った後に、にぎわいを創出する仕掛けが必要と感じる。にぎわいをつくるためには、住民が主体となってなにかしらの仕掛けを行っていくことが重要になるのではないかと。施設をつくるのであれば、そういった点まで議論する必要があると考える。指定管理者とも協力して、指定管理事業に人を集めるための事業を盛り込むなどの工夫が必要になると感じた。

座長

- ・人を呼ぶのは市民交流機能ならず他の機能にもかかわってくると思うが、前提として、どのような人々に集まってもらいたいのが重要になる。
- ・庁舎は平日しか開いていないということだが、指定管理者との協議や、建物のゾーニング等で検討していきたい。

委員

- ・公民館の図書館は長時間使えるため一定のニーズがある。図書館を併設することで利点はあると思うが、必ずしも多くの人々が来るわけではないと考える。また、国道沿いにある振興局は、1階が賑わい創出フロアとなっているが、多くの人々が使用しているわけではない。

座長

- ・ 振興局は冷房がないからということもあるのではないかと。個人的には小規模な図書機能や子ども用の遊具があればよいと考える。このように、あったらよい機能について意見をいただきたい。

委員

- ・ フリースペースの運営について、市民が中心となった団体が運営を行うのか、指定管理者が行うのか。現在の指定管理者以外の団体に運営を行ってほしいと考えている。人を集めるための方策は市民が考えたほうが良い。人を集めるための方策としては、毎週末にイベントを行うことやモンベルと連携していくなどが考えられる。運営団体がしっかりと運営を行い、人を集めるための方策を検討し、実行していくことが大事であると考えている。そのうえで、フリースペースの使い方や機能が決まってくるのではないかと。

座長

- ・ まずは市民交流機能の内容が決まらないと、指定管理者が決まらないのではないかと。手続き的には、機能の中身が決定した後、指定管理者を決める流れであると理解しているがどうか。

オブザーバー

- ・ 指定管理や直営など、管理運営方法については最終的な段階で決定することになると考える。伊端委員がおっしゃったように庁舎機能に付随するフリースペースには人が来づらい。単なる休憩スペースでなく、新交流複合施設の一つの機能としてどのような形があるかを検討していくことになる。ただ施設を作っても人は集まらないため、利用してもらうためにどのようなフリースペースになるのかという点が重要な点になる。人を集めるためのしかけをつくるうえで、指定管理者のアイデアが必要になるのであれば、指定管理での運営という形になると考えている。

委員

- ・ フリースペースにおいてなにがあったらよいのかということについては、すでに議論されてきている。やはり、どのように使っていくのかという議論が现阶段では重要と考える。ただ配置を決めても人は呼べない。このような使い方ができたら良いということについてより議論すべきと考える。そのような使い方をするために、このような設備があったらよい、という形で考えていくべきでないか。

委員

- ・ 建物には冷房設備は完備されるのか、それによって人が集まるかに影響が出る。また、吹き抜けの施設が多いが、最近は建築費や冷暖房費を考慮して階の高さを抑える建物が多い。維持管理費用を考えるとそのような点まで考慮して検討すべきではないか。
- ・ 商工会議所が指定管理を行う場合は、土日にも運営することは可能か。

委員

- ・ フリースペースについて、収益を生む施設にするのか、もしくは収益度外視で人が集まる施設にするのかというのも一つの論点だと感じている。また、遠軽メトロプラザには高校生が電源を使用して勉強をしたり、サークル活動を行ったりなど、多くの人が使っている。どれくらいの人を集客するのかという点についても考える必要があると感じた。
- ・ 商工会議所が指定管理者になった場合、現状では土日に運営することが難しいと考える。しかし、産業会館の機能を新交流施設に移転すること等を考えると、指定管理を受けた場合は土日は開けなければいけないと考えている。

委員

- ・ 指定管理について、手続き上は建物の内容が決まってから管理者を決定することになるのだろうが、ノウハウのある団体など、誰が運営を行うかが大事になる。人を見る必要があるのではないかと。
- ・ 遠軽メトロプラザの話があったが、社会教育が充実している町である。もし社会教育事業の充実を目指すなら、ノウハウのある人材が必要である。

座長

- ・ 冷房設備は全会一致で導入することとする。
- ・ 運営者については、今後の検討になるが、より議論を進める段階に来ていると感じる。賑わい創出のためには、ある程度イベント開催経験等のある地元の商業者が主体になるのではないかと。
- ・ どうなったら集客できるのか、どのような人に集まってほしいのかも非常に重要である。

委員

- ・市民である。

副座長

- ・駅前商店街に店を構えている身としては、旧駅前に歩いている人を増やしたい。その点では、高校生から子連れの子などである。例えば自衛隊の官舎に居住している親子の居場所が新交流複合施設になったら良いと考える。バスなどで複合施設を訪れ、どこに飲食や買い物などをしに行くかといった起点になればよい。また、病院に行くための乗換拠点として高齢者の方にも来てほしいと考える。

委員

- ・参考までに商工会議所においては、デイサービスセンターに来た人を連れて行って、その先で時間を過ごす場のような、介護の面からも使えるような施設になったら良いという意見も出ていた。

委員

- ・新交流施設のコンセプトの一つは、「人流をつくる」である。道の駅が対外的な人流を作るのであれば、新交流施設は市民の人流を作る場というのが一つのコンセプトとなる。これに「経済を回す拠点」「物流を回す拠点」を加えて3本の柱である。このまちは夏場に非常にイベントが多い町であるが、イベントスペースがあまりないのではないかと聞いた声もあがっている。遠軽のメトロプラザは、1階に多目的ホールやリハーサル室、フリースペースがあり、ガラス張りの部分を開放してイベント広場とつなげることができる。天候が崩れた場合は室内に入ることもでき、イベントの多機能性という意味では参考になり、留萌らしいものができるのではないかと。

座長

- ・平時の使い方とイベント時の使い方というように感じた。例えば二子玉川の改札横にカフェがあり、平時は仕切っているが、花火大会時には開放している。そのような使い方ではないか。
- ・平時の使い方としては、高齢者のみに焦点を絞るのではなく、例えば都会で子どもたちがファストフード店でたまるように、子どもが集まる場として考えたほうが良いのではないかと。

委員

- ・文化センターの1階には5～6時頃になると中高生が集まって勉強をしたりゲームをしている。遊ぶ場所が無い文化センターに集まっているようである。また、ちゃいるもでは、子どもと一緒に親も中に入らなければならないので、お茶を飲みたいものの母親はゆっくりできない。自衛隊官舎に新しく入居してきた方が、カフェに行ったが、高齢の方で席が埋まっていた入れなかったという話も聞いた。若者の目線で考えることも大事だと考える。

委員

- ・買い物に行ったついでに違うことを行う、ちゃいるもや道の駅に行ったついでになど、目的が複数あるような複合的なものができればよい。また、ビジネスにならないことではなく、ビジネス中心で考えたほうが良いと感じた。

座長

- ・対象を絞るということではなく、主たる対象は誰かということである。将来のことを考えると一番足りないのは子どもたちのたまり場であると考え。小規模な物販機能をつけて子どもたちが飲食しながら集まればよいと考えるが、どれくらいの席数があれば十分か。フリースペースはどれくらいの規模を想定しているのか。

事務局

- ・市民交流機能や情報発信機能、交通結節機能については、他の社会教育施設や庁舎機能の規模に応じて規模が決まる形となる。物販やカフェ、ATM、バス待合等を配置した中で最終的なフリースペース部分が決まると考えている。現段階では決まっていない。

座長

- ・どれくらいのフリースペースの規模であれば人が集まるのかということを知りたい。

ドーコン

- ・議論で出たような使い方をするためには、どういった規模があれば実現できるか、必要な面積について

ては、具体的に提示したいと考える。

座長

- ・ポイントは、柔軟性であると感じている。普段は仕切りで区切って子どもたちが遊び、イベント時には開放するなどの使い方ができればよい。現在の庁舎の1階にある市民交流スペースでは物足りない。他の機能を決めてから規模が決まるということであったが、肝になるスペースではないか。
- ・その他ご意見はあるか。

副座長

- ・市民交流機能は新交流複合施設の、ひいては市の顔になるスペースである。余ったスペースにつくるものではないと考える。使われ方も含めてしっかりと作る必要があるのではないか。
- ・もてつサポートメンバーの活動の一環で、見晴公園にあるSLを駅前に移設した場合にどのような活用方法があるか、について議論を行った。SLを建物内の市民交流スペースで展示し、全国からサポートメンバーを募り、1日駅長体験を行って収益を得たり、SLのヘッドマークを売り出して広告収入あげるといった内容を提案した。その中で、SLを動かせるようにして中から外へ動かすといった提案や、参考資料にある通り道の駅との連携の中で、ヴィレッジエリアA内にある線路を活かすなどの意見が提案された。まちの顔になる場所であるので、このようにSLを活用するなどヴィレッジエリアAを含めて広い空間を活用することについても議論して良いのではないか。

委員

- ・見晴公園のSLはすごいものなのか。

座長

- ・貴重である。

副座長

- ・形式自体は全国で1台しか残っていない。冬はシートで囲って保存しているため、保存状態も良い。

委員

- ・全国からファンが訪れるのか。

副座長

- ・今はそうでもないが、今後活用方法を考え、世界から鉄道ファンを呼べるような場所になればよい。
- ・SLを見晴公園から駅前に移動させることについては市役所の方で検討している。動力についてはこれからの検討になる。

オブザーバー

- ・現在は、見晴公園において屋根を撤去してブルーシートのみ状態で保管されている。そのため、劣化していることもあり、見晴公園から駅前に移動できるかということについて検討を行ってきた。移動は可能であり、移動ルートについても整理を行った。ただし、車輪が動かないなどの問題から、動力を用いてSLを動かすことは難しいかもしれない。移設をして、建屋等の展示スペースの中で常設展示を行いつつ、周辺との連携など展示だけでない活用方法についての検討は必要であると感じている。

委員

- ・副座長の意見に賛成である。留萌の道の駅は、国交省が道の駅のリニューアルを支援する、「道の駅」第3ステージ応援パッケージ」の支援対象施設として、全国10か所のうちの1つに選定されている。選定理由の一つとしてJR跡地・鉄道遺産という要素が盛り込まれているはずである。SLが移設して動けばなお良いが、それがなくても、新交流複合施設には鉄道遺産という要素は盛り込むべきだと考えている。それにあたって、市民交流機能の中に盛り込むのか、他の機能に盛り込むのかを検討すべきだと考える。

座長

- ・SLを移設することは賛成だが、建物内に移設すると面積をとってしまう。また、線路やホームの利用も考えられる。その点については両論併記とで良いのではないか。SLを移設して活用することは合意で良いと考える。

・物販は何をイメージしているのか。

ドーコン

・コンビニである。

座長

・コンビニは欲しいと思う人が多いのではないかな。

委員

・三省堂を置いてはどうか。文科省はまちなかに本屋を残すことに力を入れている。また、図書館においても町の本屋と連携することが重要なキーワードになる。まちの売りとして、本の空間があることはイメージが良い。例えば公設民営にするなど、書店を持ってくるのも面白いのではないかな。

座長

・コンビニとのスペースの兼ね合いになる。その辺は優先順位をつける必要がある。また、コンビニに本を充実してもらうことも考えられる。
・コンビニについてはどうか。あったほうが良いかな。

副座長

・近場にあるのではないかな。歩いて3分の距離にある。

委員

・市の職員が使うのではないかな。

座長

・庁舎にコンビニがあったら使うかな。

委員

・コンビニがあればいく。

委員

・コンビニは目の前に駐車できないと一般の人が利用しないようである。

座長

・合同庁舎のコンビニはどうか。

委員

・品ぞろえが豊富ではないと聞く。

座長

・利用者数や購買力はフランチャイズが考えることである。我々としてはあったらよいということである。
・カフェについてはどうか。あったらよいと考えるが、イメージとしては、先ほどの事例にあったドトールなどのように、買った商品をフリースペースで飲食できる形にすれば面積も抑えられるのではないかな。
・ATMや金融機関についても、老若男女問わずあったほうが良いと考える。コンビニのATMだけでなく、北海道銀行や北洋銀行、留萌信金が無料で引き出せるATMがあったほうが良いのではないかな。
・その他あったほうがよいという機能はあるかな。

委員

・郵便局はあったほうがよい。

事務局

・今後勉強させていただき検討する。

委員

・高齢者は、月に1～2回、郵便局、市役所、銀行に行く。そのため、これらが一か所にあったら良いのではないかな。

座長

- ・確かにあると良いが、スペースとの兼ね合いから今後検討を行う。
- ・続いて、交流結節機能の説明をお願いします。

ドーコン

- ・活発な議論を感謝する。
- ・賑わいを生むためには休日も開ける必要があるという意見があった。そうすると休日の運営はどうするのか、さらに休日開いているところと休日は閉まっているところはどうかというハードの議論にもつながっていく。現在策定中の基本計画は、基本設計にスムーズにつなげていくためのもので、そのような具体的な議論が必要になる。これからいただいた意見を形にしていく作業になるが、具体的な形を示したほうが意見を出しやすいのではと考える。
- ・運営の参考として、次回資料としてお示しするが、アオーレ長岡は、指定管理でなく、NPO法人に毎年運営委託している。指定管理にすると、行政が毎年モニタリングを行う必要があり、行政側に寄った運営になってしまう。市民目線の運営を可能にするため、NPO法人に運営委託しているということであった。
- ・「資料3：交通結節機能の概要」について説明を行った。

座長

- ・現状は駅前に点在している3か所の停留所や待合室を、新交流複合施設に1つにまとめるということである。何かご意見はあるか。

委員

- ・個人的には、停留所まで歩くことを考えると、いくつか停留所はあったほうが良いと考えるが、多くの市民が望むのであれば否定はしない。
- ・結節点という意味では、市内バスの結節点なのか、札幌や旭川方面のバスの結節点なのか。市民のバス利用は少なく、札幌方面の利用者も多くないのではないか。沿岸バスは、はぼろ号がまちなかを通らず、まちなかを通るようになれば便利だとも感じる。また、混むのはお正月とお盆休みであり、そのような利用者のニーズを考えたほうが良いのではないか。
- ・運営についてはバス会社に委託するのか。また、沿岸バスと中央バスはターミナルを作ることを求めているのか。待合環境の快適性の向上は必要と考えているが、それらの点について整理する必要があると感じる。

オブザーバー

- ・ターミナルについては、事業者から要望があったわけではなく、行政側で結節点を集約したほうが良いと考えた。バスターミナルを作るのであれば、路線など事業者目線での検討が必要になることから、事業者と協議を進めることが前提となる。
- ・結節点ということでは、まちなかを通らない都市間バスと市内バスをつなぐ結節点にしたいと考えている。また、幹線バスと病院への直通バスなどのそれを補完する路線との結節点にもなればよいと考えている。

座長

- ・2か所のバス待合を統合することは問題ないとする。バスルートについても気になるころではあるが、ここでは議論しづらい。個人的には、現状のバスは時間がかかり過ぎるため、若い人は乗らないのではないか。新交流複合施設までのアクセスをどうするかということと、道の駅とは無人運転でアクセスが確保されたり、本当の意味での結節点となる。それらを前提として、待合を集約して、バスの待ち時間にカフェ利用などができる施設となれば良いと考える。
- ・新交流複合施設の駐車場はどれぐらいを想定しているのか。

事務局

- ・駅前の敷地を来客者・来庁者用の駐車場として確保したい。また、庁舎の東側にも職員用、公用車用を含めて確保したいと考える。現状は公用車が全て入る形を想定している。

座長

- ・市民やバス利用者が柔軟に使えるほどの台数でないということか。

事務局

- ・前面の部分がそれほど広くはないことから、全体の土地利用との兼ね合いで確保できるスペースがあるかについてはまだ検討を行っていない。現在は、バスタッチとして利用できるように考えたい。

座長

- ・地方において駐車場は特に大切である。道の駅もキャンピングカーを停めている人が多い。バス利用者等の利用を考えると500台ほど整備してほしい。車を置いてバスに乗る人も多いと考えられる。バス利用者が車を置ける程度の駐車場でないと、交通結節機能にはならないのではないかと。

委員

- ・駐車場予定敷地は、冬になると季節風が直撃し、風雪がすごい場所である。そうになると除雪が課題になる。交通結節点となるとバスが常時来るため、きめ細やかな除雪が必要になることから、雪を防ぐ場所、捨て場なども含めて設計段階から考慮する必要がある。市立病院は入り口を西側に作った結果、冬の吹雪をまともに受けることになり、回転ドアに変更した。

委員

- ・タクシーやマイカーとの接続が円滑にできるような設計が必要だと考える。

委員

- ・同じような意見について、事務局にメールを送ったが返事が来ていない。先日の部会では、私のメールの内容は共有されているのか。メールの意見について共有や報告がないと、同じ議論をすることになる。今後はどうしていくのか。
- ・また、部会の議事録はつくるのか。

事務局

- ・部会での情報共有は行っていなかった。現状検討を行っているのは基本構想において検討した事項であり、例えばバス事業者との交渉等の検討は先の段階で行うこととなる。いただいた内容は検討内容に対しての質問であり、意見として情報共有することが難しいことから共有しなかった。

委員

- ・それであれば、そういった返答をいただきたい。返答がないと、会議に対して懐疑的になり得るし、このように同じような議論が出てきてしまう。どのような内容であれば部会で共有するのかについて教えていただきたい。

事務局

- ・どのような機能が欲しいのかといったご意見を中心にいただきたいと考えている。例えば、欠席委員からの議題に対するご意見は共有したいと考える。

座長

- ・事務局に対する質疑については、原則会議の場で聞くこととする。その他、検討が進んでいない内容等について質問があった場合は、検討していない場合でも事務局側から返答を行うこととする。基本的には、会議の場で議論することとし、足りない部分や欠席者の意見をメールで補うこととする。

事務局

- ・部会の議事録は作成はしている。扱いについては今後検討を行う。

座長

- ・部会の議事録は非公開とする。

委員

- ・そうなるとなおさら部会が大事になる。今回であれば、市民交流機能と交通結節機能、次回であればホールおよび防災機能と、各会議のテーマの関係者が部会で議論した内容が検討会議に上がってくると理解していた。しかし、そうであると本会議の意義が薄れてしまい、部会に対してあらかじめ意見を提出しないと意見が反映されないのではと感じたが、事務局はどう考えているか。

座長

- ・部会は議論を深める場でなく、市民検討会議の議論の方向性を決める論点整理の場であると考えている。今回の部会では、市民検討会議に向けて、過去の機能に対する市民意見を提示してほしいとの意見を

出したが資料が不十分であった。そのように、市民検討会議に向けた論点整理の場が部会であり、議論する内容を絞るわけではない。

委員

- ・メールでの質問事項や欠席者の意見について、資料の添付やメールでの送付など、情報共有していただきたいと考える。委員の存在意義に関わると感じている。

事務局

- ・部会は、市民検討会議に向けての準備資料等を検討する場であると考えている。
- ・最終決定機関ではなく、市民検討会議におけるスムーズな議論に向けた準備の場である。

委員

- ・部会長とも相談し、部会の在り方を検討したほうが良いと考える。

委員

- ・事務局への質問メールについては、座長に相談するという流れをつくれればよいと考える。

委員

- ・賛成である。

事務局

- ・欠席委員の意見を共有する。
- ・市民交流機能について、基本構想に記載の機能については異論がない。なお、市民のニーズに沿ったコンテンツを配置すべきであり、市民が優先的に使えるゾーンを整備する必要がある。情報発信機能も市民に特化すべきである。近郊自治体、交通結節、人流結節、地域情報、経済活動の結節となる組織などを併設する必要がある。また、場所を道の駅や留萌港側に寄せる必要がある。商用ゾーンやSILのメモリアルゾーンを配置し、通る人を飽きさせない空間にしたほうがよい。
- ・交通結節機能については、留萌と他都市を結ぶバス都市間バスと市内を動くバスをつなぐ拠点を作るべきだ。市民交流機能の持つ機能はバス利用者にも求められる。また、タクシープール、パークアンドライド用駐車場、レンタカー、レンタサイクルの機能をつくったほうが良い。

副座長

- ・言葉では頭に入りづらい。内容については書面でいただきたい。
- ・委員からのメールの内容も資料に入れて良いのではないかと。メールでの意見に対して議論を行うというわけではなく、議論ができない内容であったとしても意見が出た事実を共有することが重要だと考える。

座長

- ・意見に関しては、会議資料に添付することとする。質問に関しては、座長が把握したうえで、直接事務局から回答いただくもしくは、特に重要な質問は会議で共有することとする。事務局にメールを送る際は、意見なのか質問なのかわかる形で送付することとする。また、意見を送る際は、会議のテーマから論点がずれないように、論点を明確にして送ることとする。
- ・交通結節機能についてはその他意見があるか。

一同

- ・なし

座長

- ・申し合わせ事項で挙げたとおり、論点がずれないように進行したいと考える。
- ・部会に関しては、部会長とも相談するが、基本的には議論を詰める場でなく、市民検討会議に向けた議論テーマと資料の検討をする場と考える。そのため、原則、部会の議事録は不要と考える。

3. その他

事務局

- ・欠席委員の意見については、次回会議から資料として添付する。今回の欠席委員からの意見については、議事概要とともに送付を行う。
- ・当会議の議事概要をHP上に公表し、市民意見を募ることを考えている。第1回、第2回の議事録を今週中に公開する。本会議については、準備が整い次第公開する予定である。
- ・次回の市民検討会議は、8月29日（金）にこちらの会議室で行う。議論のテーマは、ホール機能および防災機能の予定だが、進め方については部会長座長含めて検討し、場合によってはロードマップどおりに進まないこともあり得る。

座長

- ・最後にご意見はあるか。

委員

- ・部会はいつ行うのか。

事務局

- ・8月18日（月）、15時30分から、産業会館において行う。

座長

- ・次回は、ホール機能および防災機能である。意見があれば、資料に添付する。

副座長

- ・議論した内容をふまえて必要面積を示すということであったが、それに関しては3回にわたる機能の議論を終えた後、面積に関して議論する回をつくるのか。もしくは、最後に全体のまとめとして面積に関して議論するのか。

事務局

- ・当初は機能ごとに議論を進める予定であったが、事例を基にしても議論がしづらい部分がある。そのため、資料も含めて進め方全体について検討を行う。

ドーコン

- ・次回は防災機能ということになっているが、防災機能に対しては意見が出しづらいつと考える。平面図など、具体的なものがあれば意見を出しやすいのではないかと。全体像を見据えた中で、その中の一つとして各機能の議論を行い、より議論が必要な機能については複数回にわたって議論を行っても良いと考える。

座長

- ・今回は議論がしやすいテーマであったが、防災機能はテーマがしづらい。部会では、2つの機能ごとに進めればよいのではないかと話になったが、探りながら進めている部分もある。また、機能ごとの検討で終わるのでなく、振り返りの回も設けたいと考える。進め方も含めて部会で検討する。
- ・以上で会議を終了とする。

以 上
閉 会